

地域医療の現場から



一生を通して おいしく食べる

山都町立国保蘇陽病院 柏歯科診療所 歯科衛生士 小崎 浩美

病院の概要

- 対象とする住民人口：約5千人
- 設立年：昭和61年4月
- 職員数：3人
(歯科医師1人、歯科衛生士1人、事務職員1人)



自然環境に恵まれた山里、山都町

山都町は平成17年2月11日に旧蘇陽町、清和村、矢部町が合併して誕生し、県内で屈指の面積を誇る町となりました。地理的には熊本県の東部ほぼ九州の中央に位置し、阿蘇南外輪山から九州山地の脊梁までを圏域とします。標高は300～900mで、北部はなだらかな高原状を呈していますが、南部は九州山地の山々が分水嶺となり、緑川・五ヶ瀬川がここを水源として有明海と太平洋に注ぎ出でる水の清らかな町でもあります。自然環境には恵まれていますが、一方では、冬場には雪で閉ざされることもある厳しい側面もあります。

当診療所のこれまでのあゆみ

柏歯科診療所は、蘇陽病院歯科を経て、病院所在地の馬見原から11kmほど離れた二瀬本に、旧蘇陽町の歯科診療所として昭和61年に開設されました。

運営は、町村合併以前は、旧蘇陽町が旧蘇陽町清和村立病院組合(蘇陽病院)に委託する形で行われ、合併後は山都町立の歯科診療所として蘇陽病院の傘下におかれています。



山都町の冬は厳しく、診療所が雪に閉ざされることもある

歯科保健活動の必要性を感じて

当診療所は、平成8年に国保の補助を受けて歯科保健センターを併設しました。

旧蘇陽町時代は、歯科保健スタッフが同じ目標に向かって、各ライフステージにおける歯科保健活動を展開してきましたが、合併後は広域になったこともあり保健活動の場も減ってきたように思われます。山都町となり乳幼児のむし歯保有率は増加傾向にあり、平成19年度に「山都町歯科保健研究会」を発足いたしました。参加者が少なく現在は休止状態となっています。

今後の課題としては、学校・行政・保育園等と改めて連携を図り、歯科保健に携わるスタッフの共通認識のもと歯科保健を進めていく必要性を感じています。



フロアに寝ころんでの歯科指導。これなら歯医者嫌いの子どもも嫌がらずに受けられそう

3年後、再び“蘇陽病院歯科”として

平成23年度から、母体である蘇陽病院の新築移転工事が始まり、平成25年から診療開始の予定となっています。それに伴い、柏歯科診療所は再び蘇陽病院内に移設され、診療所から病院歯科へと変わる予定になっています。

新病院においては、今まで以上に、入院患者の口腔管理に力を入れていきたいと思っています。

最後に、「一生を通しておいしく食べることができる」ということは人間にとって一番幸せなことであり、私たち歯科医療職が「住民の生涯にわたる口腔の健康づくり」に対し積極的に支援していくことが大切だと考えています。

